平成 21 年 4 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 4 月 23 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザは終息傾向にあります。**
- **2008 年 4 月～12 月の MR ワクチン接種率は、第Ⅱ期 63.9%、第Ⅲ期 63.5%、第Ⅳ期 45.0% でした。2009 年度対象者には早期の接種をお勧めください。**
- **伝染性紅斑が例年よりやや高めの水準です。**

平成 21 年 3 月 23 日から 4 月 19 日まで(平成 21 年第 13 週から第 16 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 3 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

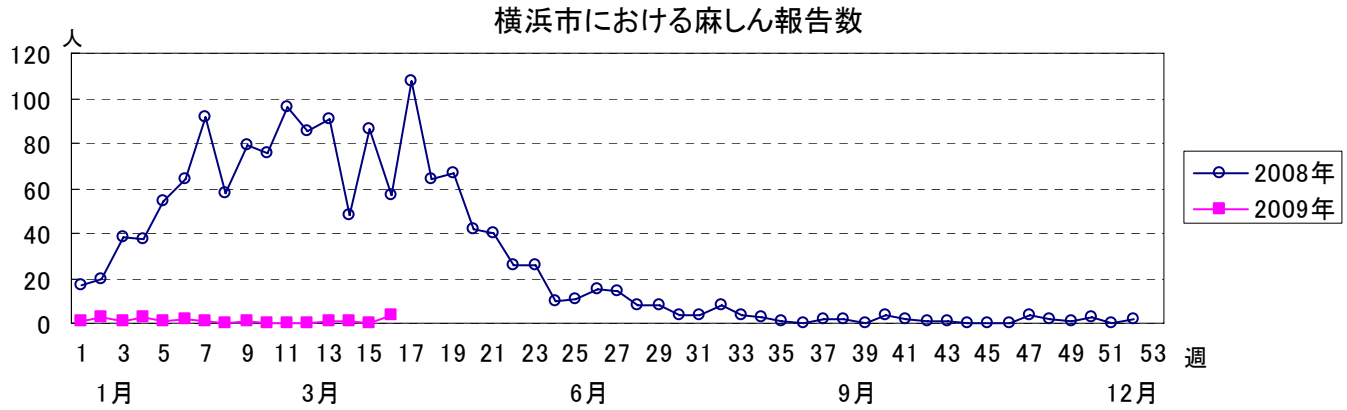
平成 21 年　週－月日対照表

第 13 週	3 月 23～29 日
第 14 週	3 月 30 日～4 月 5 日
第 15 週	4 月　6～12 日
第 16 週	4 月 13～19 日

全数把握の対象

1　**麻しん**:2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html)

2009 年 4 月は 22 日現在で 6 例の報告があり、4 例は予防接種を 1 回受けていました。



ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、予防接種を 1 回受けていても、麻しんにかかっていない方は予防接種を生涯 2 回受けることが大切です。
横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html をご覧ください。
2012 年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

《日本は、2008年～2012年の 5 年間で、麻しん排除を目指します》

① 風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握
② 1 歳および就学前 1 年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底
③ 5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

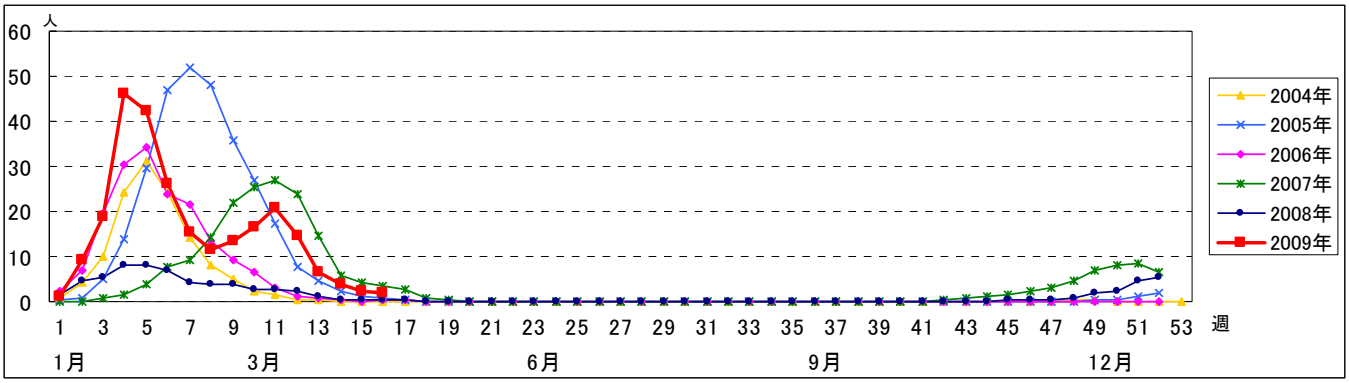
定点把握の対象

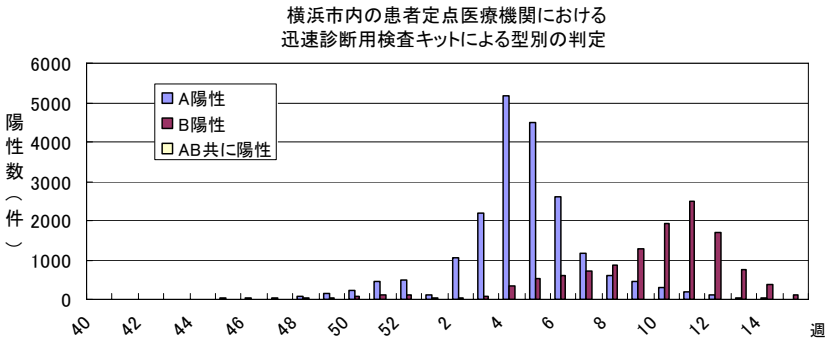
1　**インフルエンザ**:今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第 4 週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。

その後は減少しましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週に定点あたり報告数 20.69 となりました。その後減少し、第 16 週は 1.78 と警報解除の水準となりました。行政区別では、港北区(3.90)、緑区(3.20)、神奈川区(3.17)の順で多く報告されています。神奈川県は 2.36、東京都は 3.46、全国は 4.1 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週をピークに減少し第 16 週には A 型 36 件、B 型 145 件、

A･B 共に陽性 4 件の報告で、B 型が優勢です。





また、2008 年第46週以降、病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離･検出数は併せて 188 件あり、その内訳は AH1(ソ連型)77 件(41%)、AH3(香港型)41 件(22%)、B 型 70 件(37%)となっています。

AH1(ソ連型)分離株(病原体定点及び集団かぜ)は遺伝子解析を行った 96 件すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株(病原体定点及び集団かぜ)は、遺伝子解析を行った 35 件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました(4 月 22 日現在)。

2　**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:昨年は、過去 5 年間で最も高い水準で推移していましたが、今年に入ってからは例年並みの水準で推移していて、第 16 週は 1.54 でした。行政区別では緑区(6.00)が高く、次いで瀬谷区(2.75)、港北区(2.71)となっています。神奈川県は 1.68、東京都は 1.5、全国は 1.91 でした。

3　**感染性胃腸炎**:昨年は、第 43 週から増加の兆しが見られ、第 51 週の定点あたり報告数は 18.51 と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009 年第 16 週は 5.87 となりましたが、依然ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では港南区(13.0)、旭区(10.80)、港北区(10.71)が高くなっています。神奈川県は 6.93、東京都は 7.34、全国は 8.48 と、いずれも横浜市より高い値です。

4　**水痘**:例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009 年第 2 週の定点あたり報告数は 3.67 と、過去 5 年間で最も高い値となりました。その後減少し、第 16 週は 1.59 と、現在は例年並みの水準で推移しています。例年、初夏にかけて流行しますので注意が必要です。行政区別では港南区(3.00)、泉区(2.75)、瀬谷区(2.75)が高くなっています。神奈川県は 1.58、東京都は 1.08、全国は 1.58 でした。

5　**伝染性紅斑**:例年並みの水準で推移していましたが、第 13 週から増加し、第 16 週は定点あたり 0.53 と、例年より高めの水準となっています。全国では、過去 5 年間の同時期と比較して低い水準で推移していて、第 16 週は定点あたり 0.12 でした。例年、6 月頃が一番高いようですので、今後の動向には注意が必要です。

6　**性感染症**:性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科･皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

3 月は、2 月に比べて全体としては横ばいですが、性器クラミジア感染症がやや減少しています。19 歳以下の若年層については、男性は性器ヘルペスウイルス感染症で 2 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
横浜市衛生研究所ホームページアドレス　URL:http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/